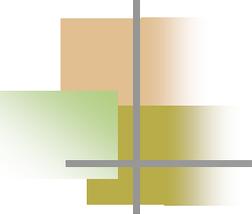


酒造メーカーガラスびんの利用・ 環境負荷低減に向けた取組の概要 (アンケート調査の結果概要)



アンケート調査の目的

- 焼酎容器には、ガラスびん、紙パック、PETボトルなど多様な容器が使用されているが、鹿児島県・南九州では900mlびんの利用が多いことが特徴である。
- 地域における資源循環を図るため、これらのびんのリユースを促進するために、酒造メーカーにおける現状でのガラスびんの利用状況やリユースびんに関する関心、あわせて環境への取組の概要・意向等を把握することを目的とし実施した。

アンケート調査の概要

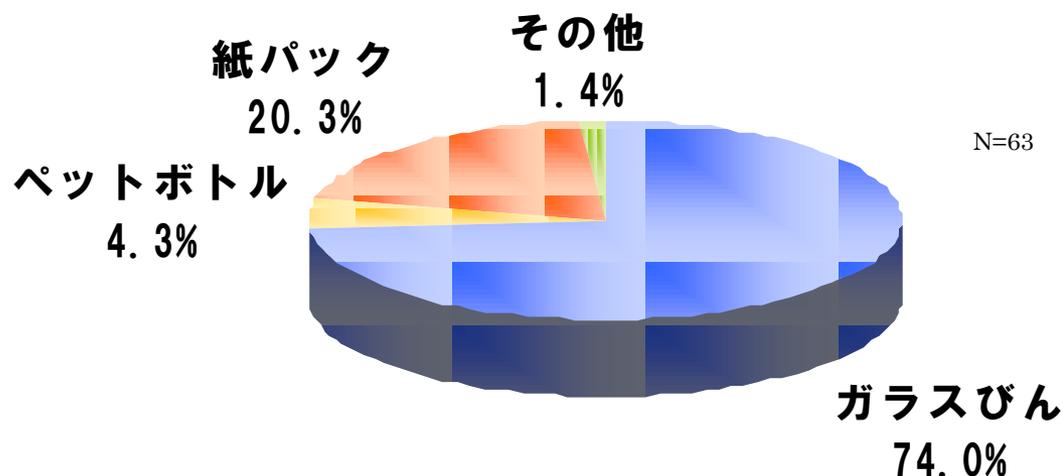
- 調査は鹿児島県酒造組合にご協力をいただき実施。
- 鹿児島県酒造組合会員に郵送にて送付、鹿児島県酒造組合宛にファックスにて回答、調査会社にて集計。

	発送数 (A)	回収数 (B)	回収率 (C) (=B/A)
酒造メーカー	104	63	60.6%

- 課税出荷量ベースでは約67%の回答を得ている。
- おもな調査項目は以下の通り
 - 現状でのガラスびんの利用状況、地域別の出荷動向
 - リユースびん利用の現状、今後の利用意向・関心
 - 環境への取組の概要・意向／など

容器別の出荷動向

- 各回答の出荷量（kL）に容器別割合（ガラスびん、ペットボトル、紙パック、その他）を乗じ、集計。
- 焼酎出荷時の容器では、「ガラスびん」が最も多く74.0%、次いで「紙パック」が20.3%、「ペットボトル」4.3%、「その他」1.4%と続く。



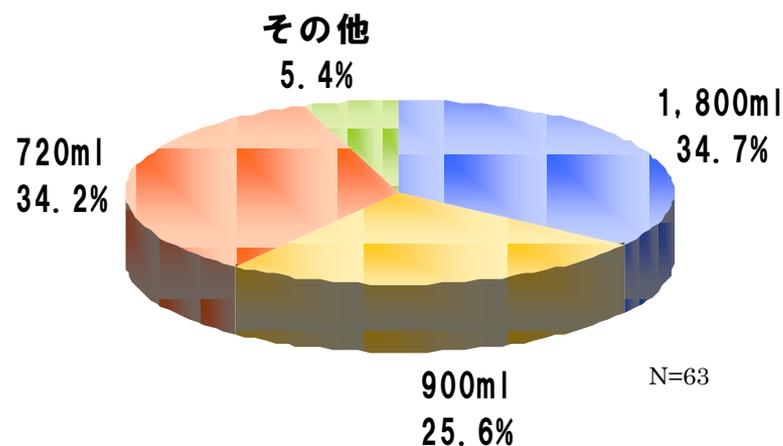
※出荷量(kL)に出荷時の容器別割合を乗じて集計した結果

ガラスびんでの出荷動向

- ガラスびんでの出荷は5,355万本と集計。
- 容量別に見ると「1,800mlびん」での出荷が最も多く34.7%（1,858万本）、次いで「720mlびん」が34.2%（1,830万本）、「900mlびん」が25.6%（1,371万本）と続く。

(単位:万本)

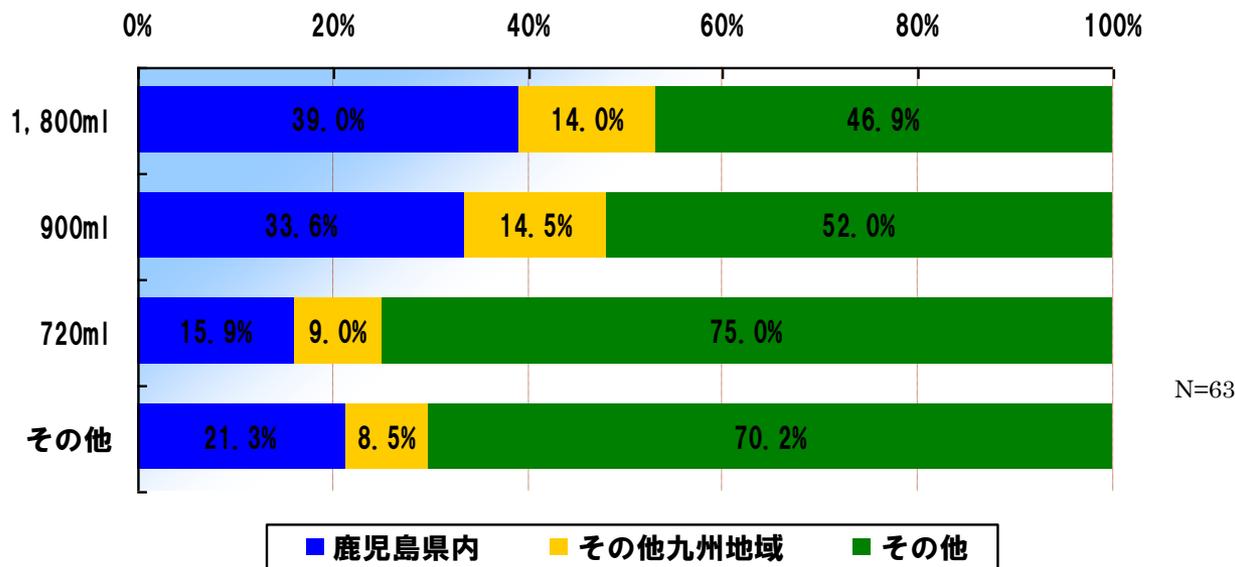
	単式蒸留焼酎	連続式蒸留焼酎	合計
1,800ml	1,848	9	1,858
900ml	1,370	1	1,371
720ml	1,829	2	1,830
その他	296	0	296



※アンケート回答(n=63)における出荷本数を集計した結果。総本数は5,355万本。

ガラスびんの地域別出荷動向

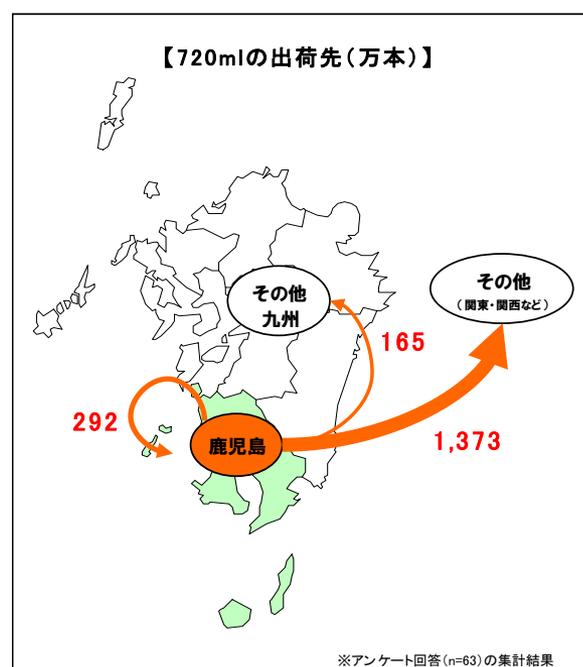
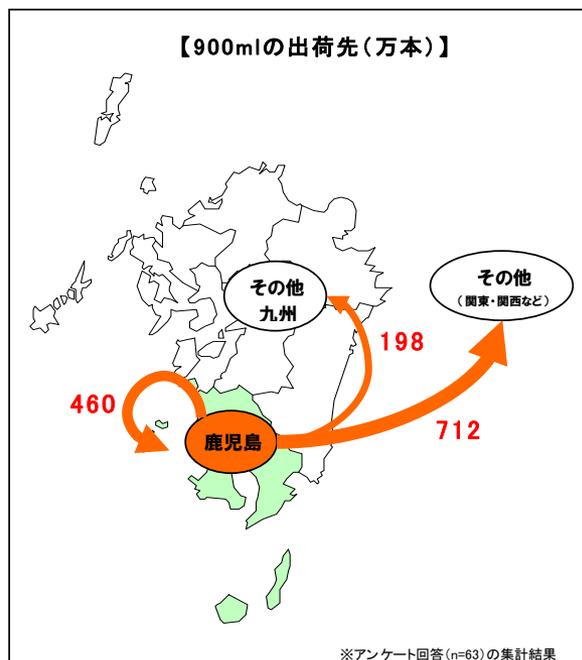
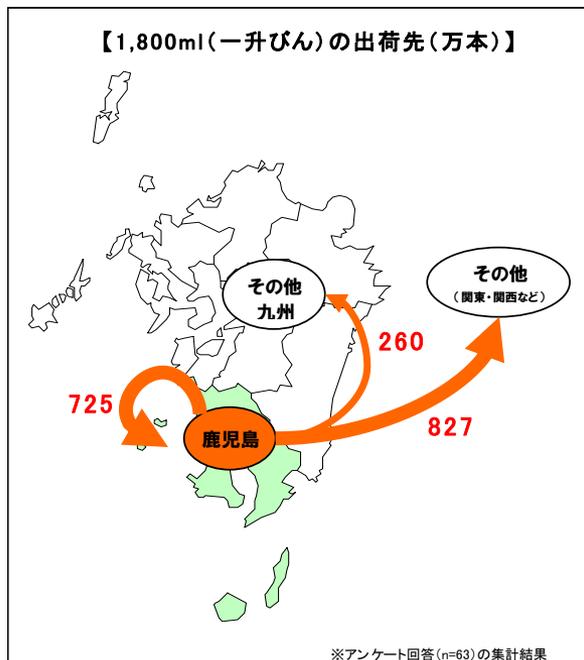
- いずれのびんも、「その他」地域への出荷が最も多くなっている。鹿児島県内での出荷割合が高いものは、1,800mlびん（39.0%）、次いで900ml（33.6%）となっている。
- 1,800mlびん、900mlびんは約半数が九州で、約半数が九州以外へ出荷されていることが伺える。



※アンケート回答(n=63)における出荷本数に地域別出荷割合を乗じて集計した結果

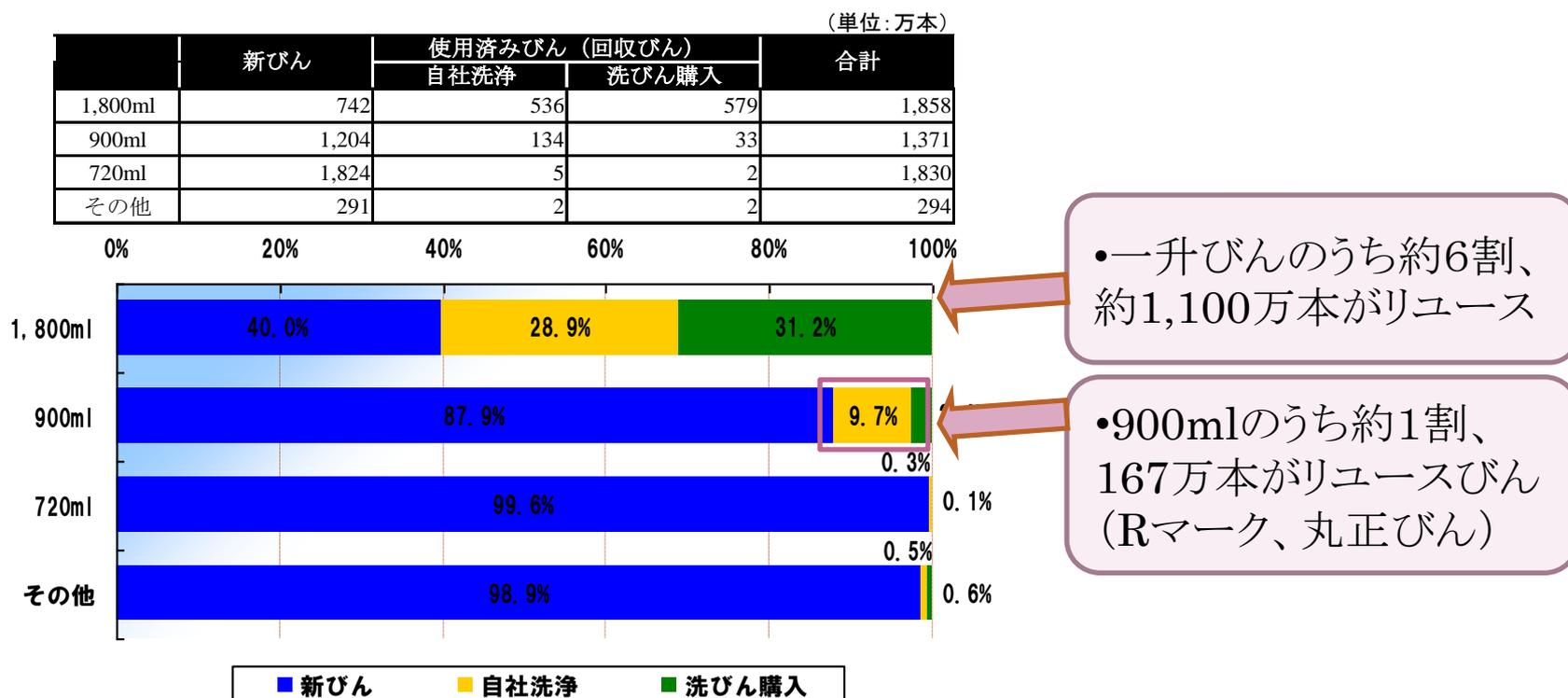
ガラスびんの地域別出荷動向

- 「1,800mlびん」は、「その他」地域への出荷が最も多く46.9%、次いで「鹿児島県内」が39.0%、「その他九州地域」が14.0%と続く。
- 「900mlびん」は、「その他」地域への出荷が最も多く52.0%、次いで「鹿児島県内」が33.6%、「その他九州地域」が14.5%と続く。
- 「720mlびん」は、「その他」地域への出荷が最も多く75.0%、次いで「鹿児島県内」が15.9%、「その他九州地域」が9.0%と続く。



リユースびんの利用状況

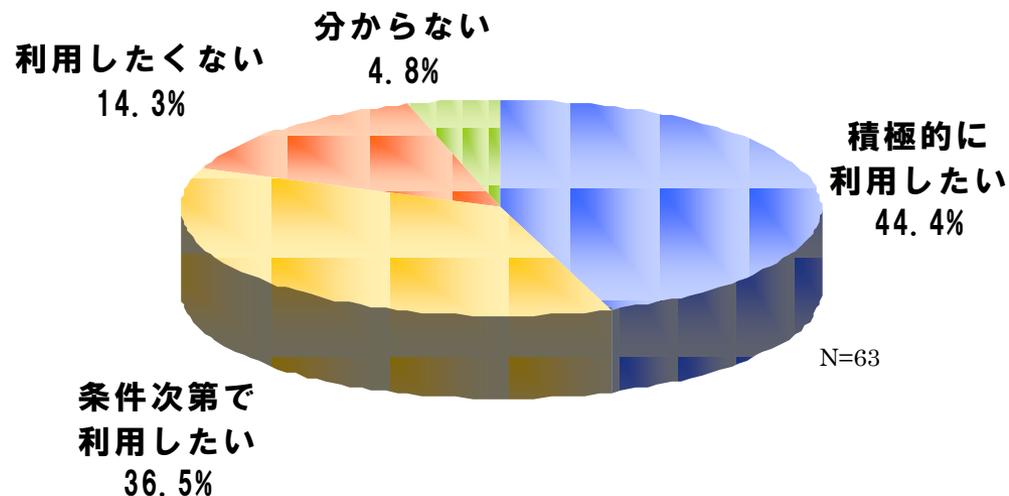
- いずれのびんも「新びん」での出荷が最も多い。
- 1,800mlびんでは約6割がリユースびんを使用、自社で洗浄、びん商等より洗びんを購入がそれぞれ半数となっている。900mlではリユースびんの利用は全体の1割強。



※「自社洗浄と洗びん購入の比率は不明」との回答があり。集計上「自社洗浄」としている。

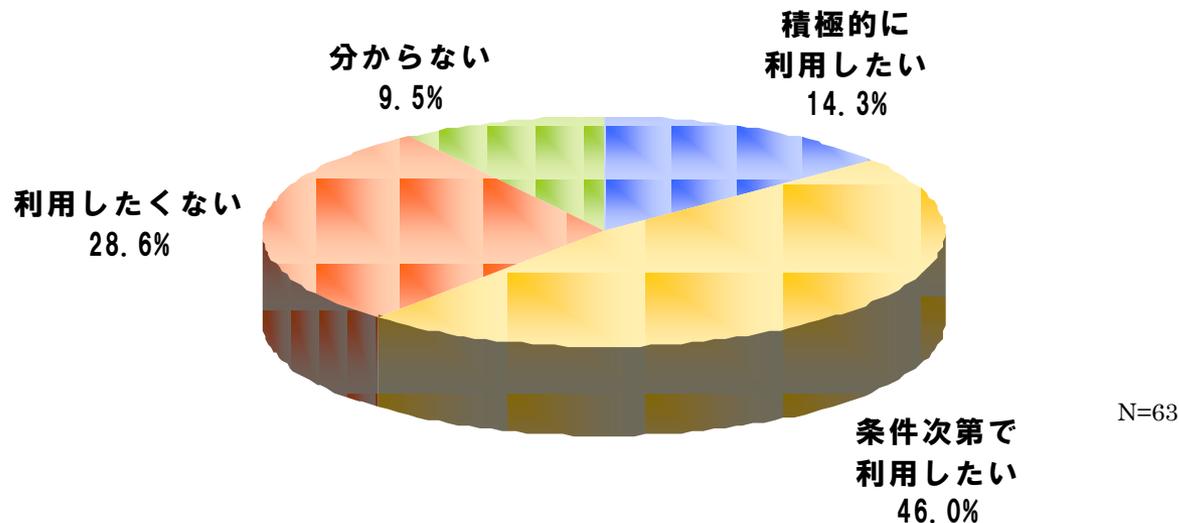
リユースびんの利用意向(一升びん)

- 「1,800mlびん」のリユースについて、「積極的に利用したい」との回答が最も多く44.4% (28件)、次いで「条件次第で利用したい」が36.5% (23件)、「利用したくない」が14.3% (9件)と続く。



リユースびんの利用意向(中容量びん)

- 「900mlや720ml(中容量びん)」のリユースについては、「条件次第で利用したい」との回答が最も多く46.0%(29件)、次いで「利用したくない」が28.6%(18件)、「積極的に利用したい」が14.3%(9件)と続く。



リユースびん利用に対する意見(自由回答1)

- 【リユースびんを使用している理由(全般)】
 - 新びんより回収びんの方が安いから。少々のキズは使用可能である。
 - なるべく環境負荷の低減に努めたいから。
 - いまでも1,800mlびんは回収びんを利用していたのでこのまま続けたい。

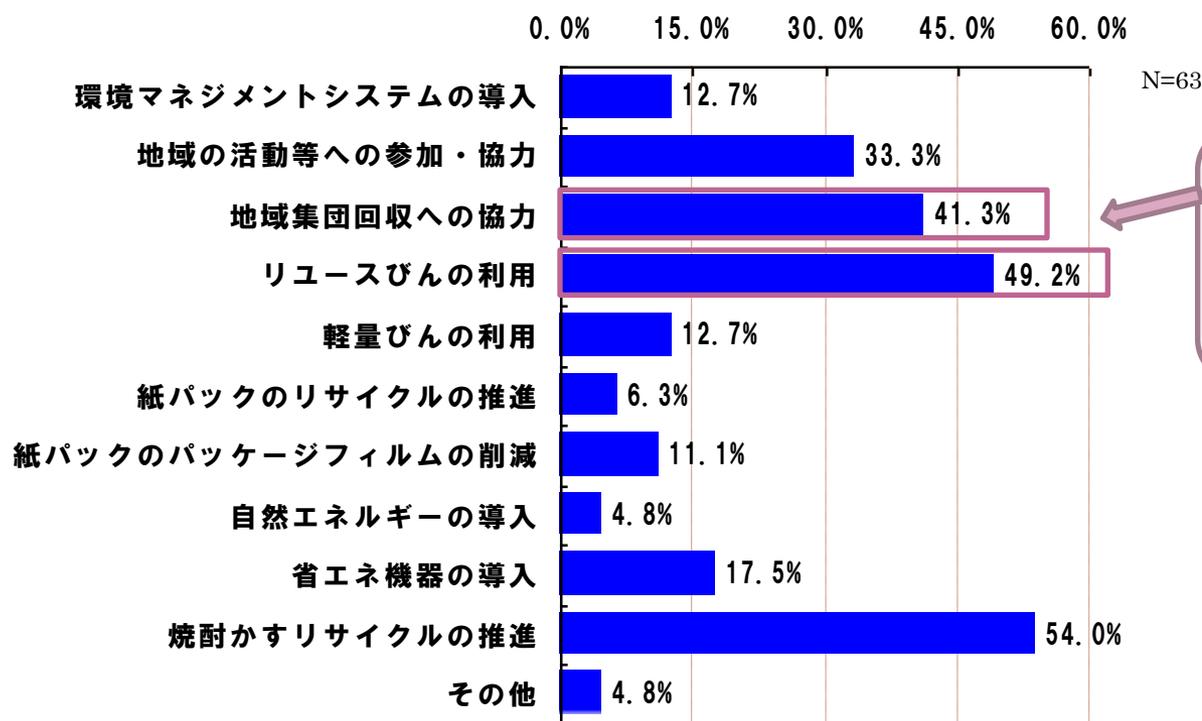
- 【リユースびんを使用していない理由(全般)】
 - 新びんを買うのと値段と変わらないから
 - 回収びん(洗いびん)はコストが高いから。
 - 当初は洗いびんで出荷していたが「傷が目立つ」と得意先よりクレームがきたため、すべて新びんとした。
 - 異物混入、破びん、品質保証の面から問題があるため新びんを利用する。
 - 再利用していたが、ひび割れが頻発し、無駄が多かった。
 - 手作業のため時間もかかり作業効率も悪い
 - 回収びんは表面にキズがあったり、汚れが落ちないものがあるため使いにくいから。
 - フロストびんは傷などが目立つので、あまりにもひどいのは使用しない。

リユースびん利用に対する意見(自由回答2)

- 【900ml、720mlびんを再使用しない理由】
 - 900mlなどは業務用が多く、びんに落書き（名前など）があるため、洗っても落ちにくく、手間がかかる。また、全体的に古すぎるものが多く、やけ、ラベル跡が多く、検びんでははねられる数が多すぎる。
 - 900mlや720mlについてはコストと品質について、洗いびんは不安がある
 - 他社商品と差異化が図れない。
 - 洗びん機で一升瓶しか洗えない
- 【利用するための条件・課題】
 - 品質に対する社会の目がきびしくなっているので、安全性や異物・外観品質などが確保できれば利用したい
 - きれいに洗浄されたびんで、かつコスト的に安ければ使いたい
 - 価格、びんの状態、P箱有無などを考慮して判断している。
 - びんの汚れ具合と価格により検討する
 - 環境負荷のことを考えると、回収びんを援用する必要があると考える
 - 洗びんの品質の問題がクリアになれば取引先のクレームの問題
 - 現在のところ、工場内も手狭で、リユースびんの設備もないので、今後は検討していきたい

社会貢献活動・環境負荷低減に向けた取組

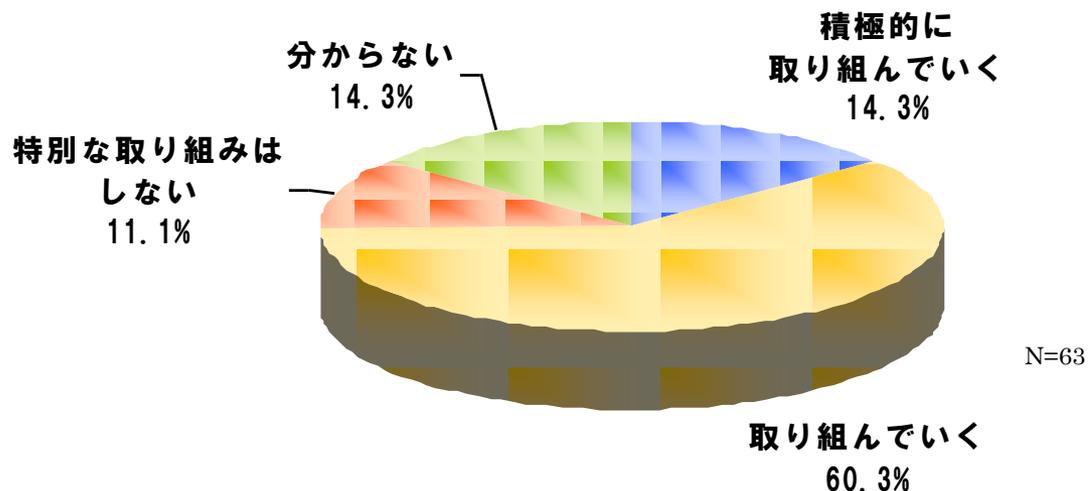
- 「焼酎かすりサイクルの推進」との回答が最も多く54.0%（34件）、次いで「リユースびん（回収びん・洗びん）の利用」が49.2%（31件）、「地域集団回収への協力」が41.3%（26件）、「地域における清掃活動・美化運動への参加・協力」が33.3%（21件）と続く。



4割以上の企業で、地域集団回収やリユースびん利用を実施

今後の社会貢献活動・環境負荷低減に向けた取組

- 今後の社会貢献活動・環境負荷低減に向けた取組予定については、「積極的に取り組んでいく」が14.3%（9件）、「取り組んでいく」が60.3%（38件）となっている。



リユースびんに関する情報提供の希望

- リユースびんに関する情報提供の希望について、「情報提供して欲しい」との回答が最も多く66.7%（42件）、「情報提供は不要」が19.0%（12件）、「分からない」が12.7%（8件）であった。

